

OB・OG懇談会報告

親 和 会 会 報

毎年開催しているOB・OG懇談会を、今年度は2021年1月25～29日の午後、5日間にわたって、WEB形式で開催しました。参加したOB・OGの勤務している企業は以下のとおりです。

- 1月25日：日本製鉄、IHI、昭和電工、三井化学、日立製作所
- 1月26日：JSR、日本触媒、デンカ、旭化成
- 1月27日：住友化学、東レ、中外製薬、住友電気工業、三菱ケミカル
- 1月28日：ブリヂストン、花王、日本ガイシ、宇部興産
- 1月29日：ENEOS、AGC、日揮グローバル、パナソニック

今回の参加企業数は22社で、各社2～4名のOB・OGが参加しました。各社の参加者は自宅からの参加であったり、勤務先からの参加であったり、様々な場所からの参加がありました。例年開催している5号館に集合しなくても良かったため、地方勤務のOB・OGも参加できました。



宮山副会長挨拶

最初に親和会から開会挨拶（25、26、29日は津本先生（親和会事務局長）、27、28日は宮山副会長）と事務連絡を行い、その後、OB・OGから順次説明を開始しました。持ち時間は25分で、約20分の説明後に学生との質疑応答を行いました。説明は企業の今後の方向性、OB・OGの業務内容などが中心であり、OB・OGの生の声が聞けて非常に良かったと考えています。

参加した学生数は、25日約40名、26日約45名、27日約55名、28日約40名、29日約30名であり、昨年度とほぼ同じレベルでした。学生に対する開催通知は、学部3年生、修士1年生、博士1、2年生の合計約300名に対し、化学・生命系の事務からメール連絡していただきました。また、メールを読まない学生への通知として、5号館と3号館の掲示板に開催ポスターも掲示しました。

2019年度までは52番教室で各社5分程度のプレゼンを順番に行いその後、各社のブースに分かれ同時に学生に説明するという形式でしたが、今回は各社のプレゼンを順番に行いました。学生としては全ての企業のプレゼンを聞くことができたことが大きなメリットであったと考えます。



白坊隆書

46号

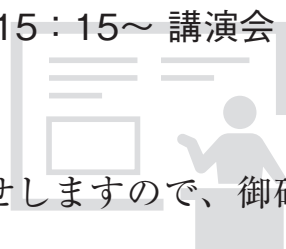
2021. 6

2021年度総会・講演会のお知らせ

下記のとおりオンライン形式で開催いたしますので御参加下さい。

日 時：2021年11月20日（土） 15：00～ 総会、15：15～ 講演会
講 師：大久保達也 理事・副学長
テーマ：(仮) 最近の東大の方向性、動き

なお詳細につきましては、親和会ホームページでお知らせしますので、御確認下さい。



●●●2021年度第1回理事会報告●●●

2021年4月24日（土）、午前11時からオンライン形式で第1回理事会が開催されました。議案は次のとおりで、すべての議案が承認されました。

議案1 2020年度活動報告・決算

- (1) 第1回理事会の開催：2020年4月25日に書面開催。
- (2) 会報の発行：第44号、第45号を発行。
- (3) OB・OG懇談会の開催：2021年1月25～29日にオンラインで開催。
- (4) 親和会通信の発送：OB・OG懇談会の開催結果について、会員名簿にメールアドレスが登録されている4445名に2021年3月5日にメールで送信。
- (5) 物故確認往復はがきの発送：1970年以前卒業で会員名簿に生存登録されている会員951名に送付。165名の物故を確認。
- (6) 決算

議案2 2021年度活動計画・予算

- (1) 理事会の開催：2021年4月24日開催、
- (2) 総会・懇親会の開催：オンライン形式で総会・講演会を開催する方向で調整。講演は大久保副学長（理事・副学長、工化学システム工学専攻教授）にお願いする。
- (3) 会報の発行：第46号、第47号を発行。
- (4) OB・OG懇談会の開催：2022年1月に開催。
- (5) 「化学系人材育成基金への協力」：会報第46号に記載。
- (6) 第8回会長杯ゴルフ大会開催：中止。
- (7) 親和会通信の発送：今後も適宜発信。
- (8) 予算

2020年度決算（単位：円）

収入	
2019年度からの繰り越し	3,754,729
年会費（1368名）	2,736,000
利子	26
合計	6,490,755
支出	
会報44号印刷・発送	900,082
会報45号印刷・発送	376,918
会員システム利用料	728,200
手数料 郵便振替（778名）	106,340
クレジット（570名）	133,192
自動引き落とし（14名）	5,995
事務委託費	1,100,000
雑費	37,700
合計	3,388,427
2021年度への繰越金	3,102,328

2021年度予算（単位：円）

収入	
2020年度からの繰り越し	3,102,328
年会費（1400名）	2,800,000
利子	20
合計	5,901,348
支出	
会報46号印刷・発送	800,000
会報47号印刷・発送	300,000
会員システム利用料	500,000
手数料	250,000
事務委託費	800,000
雑費	50,000
合計	2,700,000
2022年度への繰越金	3,201,340

「新社会を創造する化学系人材育成基金」へのご寄付のお願い

2020年度 応用化学専攻長 野地博行、化学システム工学専攻長 山田淳夫
化学生命工学専攻長 鈴木 勉、バイオエンジニアリング専攻長 三宅 亮

工学系研究科応用化学専攻、化学システム工学専攻、化学生命工学専攻、バイオエンジニアリング専攻では、新しい化学・生命系の学問領域を創造すると同時に、それをもって新しい社会創造を牽引する人材育成を目指しております。

現在、親和会会員（OB・OG）の皆様が教育・研究で慣れ親しんでこられた工学部5号館の改修工事がおこなわれています。この春に第一期工事（西側約1/3）が終わり、この秋から講義室等を含む残りの部分の第二期工事が始まります。この改修工事予算は政府からの援助によるものですが（国土強靱化の一環）、現在の計画では予算の都合上、建物の強度補強及び経年劣化した電気・水道系インフラの更新だけが予定されております。今回の改修工事は、新しい時代に即した講義や教育コンテンツを提供するための設備を整備する絶好の機会であり最後の機会ですが、現在の予算措置だけではその実現は極めて難しく、現状では旧来の講義室を維持するだけとなってしまいます。

上記の4専攻では、2020年度の専攻長を中心に「ウィズコロナ社会・ポストコロナ社会において、新しい化学・生命系の学問領域を創造・牽引する人材育成には何が必要なのか?」「そのためには改修後の講義室および研究スペースにはどのような機能が備わっているべきなのか?」を徹底的に議論しました。

その議論結果、講義室に関しては、机や椅子を最新のものに更新するとともに、オンサイトとオンラインの講義を有効に融合し、さらに講義室間も自由にバーチャル接続できる機能を有する「最先端型講義室（Dream講義室）」を整備する必要があるという結論に至りました。このような講義室整備によって、オンラインとオンサイトの講義に加えて二つが統合した講義が可能となるのみならず、大規模な講義や中規模以上の研究会・学会の開催も可能となり、若手人材の育成機会を拡大できると考えられます。また、育成された若手研究者等が新しい化学・生命系の学問領域を創造する取り組みを可能とするための「創造化学センター（仮称）」を整備する必要があるという考えに至りました。このセンターには、複数の若手グループが互いに連携・刺激しながら自由闊達に研究することを強力に後押しするために、基盤的な研究環境をあらかじめ整備した共通実験・居室スペースを用意します。加えて、組織運営に関しても若手が自由に研究テーマを設定し集中できる仕組みを整備します。このように、学部学生から大学院生・若手研究者までが伸び伸びと創造的研究に取り組める環境を整備したいと考えております。このような取り組みは、これまでの東京大学の化学系・生命系の組織では殆ど整備されておられません。

「最先端講義室」および「未来創造化学センター」は、応用化学専攻、化学システム工学専攻、化学生命工学専攻、バイオエンジニアリング専攻が考える2段階の若手育成戦略を体現することになります。すなわち、最先端講義室は、学部生・大学院生・社会人の座学・演習の教育効果を向上させるための装置として活用します。また、未来創造化学センターは、そこで学んだ知識を基に、学生や若手研究者が共に新しい化学の創出に挑戦する育成の装置とします。したがって、その受益者は学生・社会人・若手研究者であり、便益は彼らの化学・生命系講義の効果的な習得と新しい化学を創造・実践する経験値です。ここで育った優秀な人材を世に送り出すことが我々のミッション



改修後の51講義室のイメージ

です。加えて、この取り組みによって優秀な若手研究者が育成されれば、応用化学専攻、化学システム工学専攻、化学生命工学専攻、バイオエンジニアリング専攻の教員の候補者となり得ます。これにより、再び高水準な教育・研究活動に還元される正のスパイラルを形成することも、我々の目標です。

我々は、上記目的を達成すべく「新社会を創造する化学系人材育成基金」プロジェクトを立ち上げました（プロジェクト設置責任者：工学系研究科研究科長染谷隆夫教授）。この趣旨にご賛同いただいた方々より、応援メッセージや温かいコメントをいただいております。詳細は下記のWebサイトをご覧くださいと思います。

[基金Webサイト] <https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt130>

上記の趣旨にご賛同いただき、我々が考える理想の教育・研究環境の実現にご協力いただける親和会会員の方々からのご寄付を心からお願いする次第です。

人事異動

- 12月31日付け退職
化学システム工学専攻
准教授 大友順一郎
→ 東京工業大学環境・社会理工学院教授
- 3月31日付け退職
化学システム工学専攻
教授 船津公人
→ 奈良先端科学技術大学院大学特任教授
特任教授 吉江建一
→ 一般社団法人プロダクト・イノベーション協会理事
准教授 大久保将史
→ 早稲田大学先進理工学研究科教授
准教授 山田裕貴
→ 大阪大学産業科学研究所教授
助教 田中健一
化学生命工学専攻
准教授 佐藤弘志 → 理化学研究所
- 3月1日付け着任
化学システム工学専攻
助教 岸本史直 (高鍋研)
- 4月1日付け着任
化学システム工学専攻
特任助教 大島悠輔 (小倉研)、KO SEONGJAE (山田研)
特任講師 下野僚子 (大久保研)
助教 村岡恒輝 (中山研)
応用化学専攻
助教 栗山翔吾 (西林研)、齋藤杏実 (植村研)、
田中 航 (柳田研)
特任助教 米里健太郎 (山口研)

年会費納入のお願い

2021年度会費 2,000円

親和会は皆様の年会費で運営しています。年会費のお支払いを御願ひします。

- 郵便局から振込の場合
ゆうちょ銀行振替口座番号
00160-2-29506
- 民間銀行からゆうちょ銀行への振込の場合
振替用口座番号
〇一九 (ゼロイチキュウ) 店
当座 0029506
加入者名
親和会年会費係
(シンワカイネンカイヒカカリ)
- クレジット払いの場合
親和会ホームページのWEB会員管理システムからログインし、「会費納付の確認」に入りお支払いください。パスワードはご不明な場合は、事務局までご連絡ください。

親和会事務所

〒113-8656

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部5号館152号室

電話&FAX 03-5841-7400

E-mail: shinna@chem.t.u-tokyo.ac.jp

事務局: 堀 雅文

なお、2021年8月に移転の予定です。

編集後記

会長、理事の方々に相談し、2021年度は懇親会を中止し、総会と講演会だけを開催することといたしました。新型コロナウイルスの感染状況を考えますと致し方ない判断と考えます。来年度は安心して開催できるようになることを心から期待します。

東大も新型コロナウイルスの影響で、大きな影響を受けています。東大ホームページのトップに記載されておりますように、授業はオンラインが中心で、学内への入校は健康管理報告の提示が必要となっています。学内は学生の姿もほとんどないため活気のない状況となっています。以前のように活気ある状況に早く戻ることを願う次第です。